

我が国周辺における ロシア軍の動向について

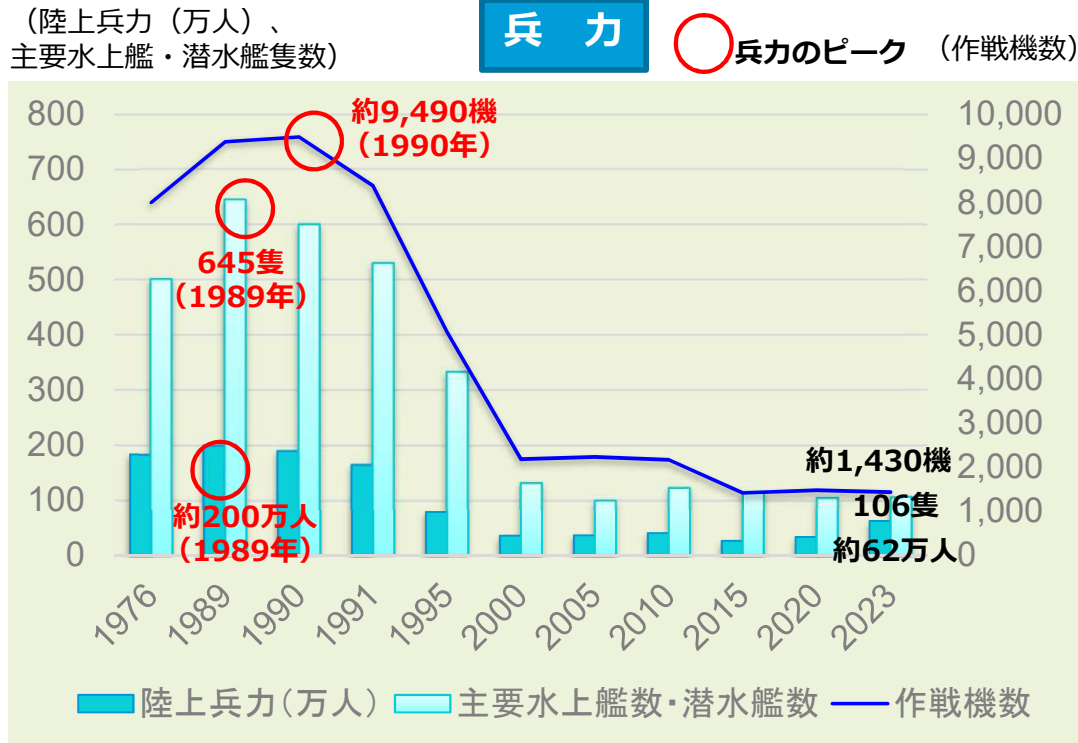
令和6年3月
防衛省



ロシア軍の兵力及び予算

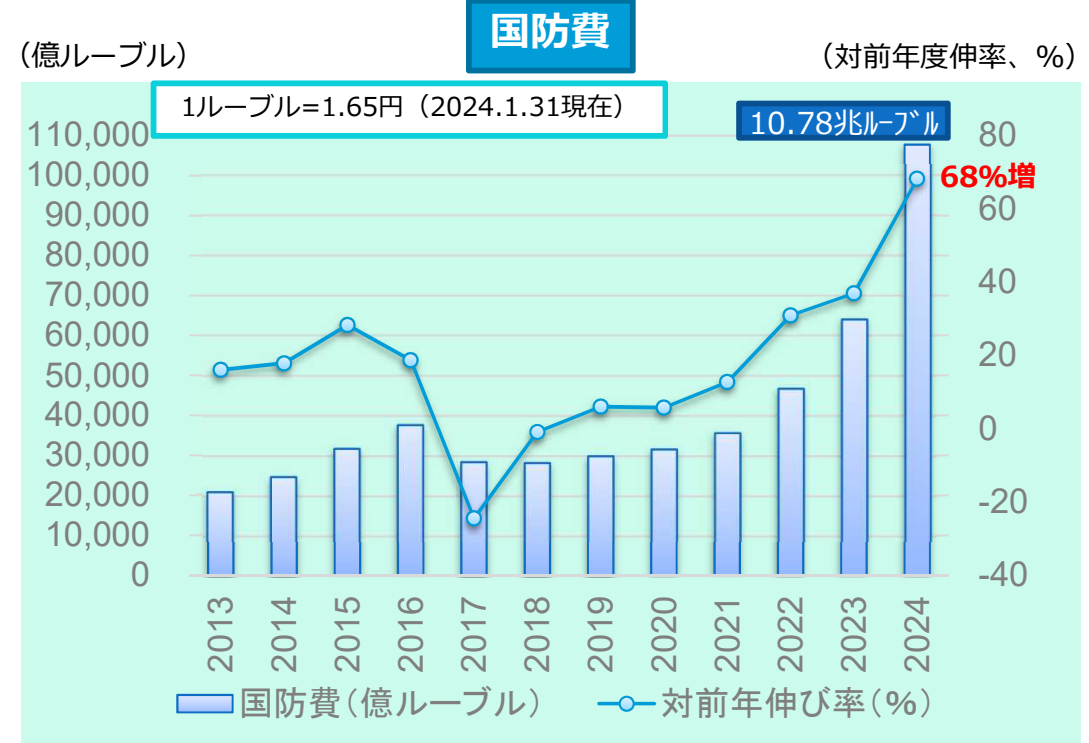
(資料源：防衛白書、Military Balance、露連邦国庫「連邦予算執行報告」、露財務省「市民のための予算2023-2025」等)

- 旧ソ連崩壊後、ロシア軍の兵力は**大幅に削減**(旧ソ連時代のピーク時と比べて概ね2割程度)
⇒ **師団中心から旅団中心**の指揮機構へ改編する等、**軍のコンパクト化**を推進
- 低迷していたロシア経済は国際的な原油高を背景に2000年頃から成長を続け、**国防費を増加**
⇒ **装備の近代化を推進**(2020年に新型装備の比率7割の目標を達成と発表)



(※1) 1989年：陸上兵力・主要艦艇数のピーク
1990年：作戦機数のピーク
(1976年：51大綱策定時、1995年：07大綱策定時)

(※2) 「主要水上艦数」はフリゲート以上の排水量を持つ戦闘艦艇の数、「作戦機数」は輸送機、給油機等を除いた軍用機の数



(※3) 2013年～2022年は執行額、2023年は9月1日時点での暫定予算額、2024年は2023年9月1日時点での予算案 (出典：露連邦社会院等)

極東方面・北方領土におけるロシア軍の動向

(資料源：防衛白書、統幕発表、露国防省発表、各種報道等)

- ウクライナ侵略後も、北方領土を含む極東での**軍備強化**、**中国との共同活動**など**活発な軍事活動を継続**
- **核戦力を含む相当規模の戦力が存在**するほか、欧州方面と同様に**新型装備への更新が進展**

演習・訓練

- 大規模演習「**ヴォストーク2018**」(18年9月) (国防省発表)
 - ・兵員**29.7万人**、航空機**1,000機**、艦艇**80隻**、戦車等**3.6万両**が参加 (冷戦後最大規模)
- 大規模演習「**ヴォストーク2022**」(22年9月) (国防省発表)
 - ・兵員**5万人以上**が参加したほか、中国海軍と北海道西方の日本海で共同射撃訓練を実施

部隊・装備の動向

- 16年**択捉島及び国後島**、21年**松輪島及び樺太**、22年**幌筈島**に**地对艦ミサイルを展開**
- 20年12月に**択捉島及び国後島**、21年2月に**樺太**に**長射程地对空ミサイルを配備**
- 21年以降、太平洋艦隊は「**カリブル**」巡航ミサイルを搭載可能な水上・潜水艦を配備
- 23年10月、太平洋艦隊で**4隻目**となる**ボレイ級戦略原潜**が**極東に回航**



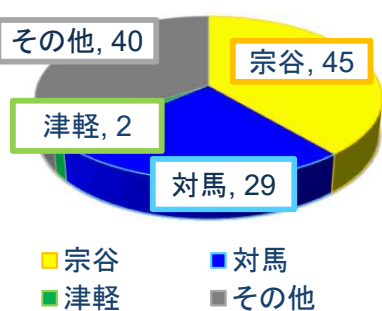
航空機の活動

- **ロシア機**に対する自衛隊機の**緊急発進回数**は、過去5年間で**年平均約257回** (2018年~2022年)
- 19年以降、**中国との爆撃機による共同飛行**を日本海、東シナ海、太平洋で実施
- 23年10月及び24年1月、Tu-95爆撃機が日本海を飛行

艦艇の活動

- 21年10月、22年9月、23年8月、**中露艦艇**は**共同航行**を実施
- 23年10月~12月、太平洋艦隊艦艇が**東南アジア・南アジア**の計**8か国**を歴訪、**共同演習**などを実施

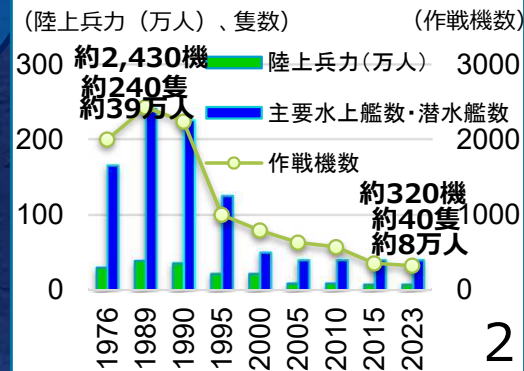
露海軍艦艇の海峡通過隻数 (22年度公表分)



ロシア



極東におけるロシアの戦力の推移



北方領土所在ロシア軍部隊

(資料源：防衛白書、露国防省発表、IHS Jane's各種報道等)

所在部隊

- ◆ **第18機関銃・砲兵師団**が、主に着上陸防御を目的として**択捉島及び国後島に所在**(同部隊の規模は約**3,500人**)

装備更新・施設整備

(肩書は全て当時)

- ◆ 北方領土には、戦車、自走砲、多連装ロケット、地对空ミサイル、ヘリなどが配備
- ◆ 2011年2月、メドベージェフ大統領は、セルジュコフ国防相に対して、「**クリル**」諸島(注)の**装備の近代化に必要な措置を取るよう指示**
- ◆ 2016年11月、地对艦ミサイル「バスチオン」及び「バル」部隊が、それぞれ**択捉島及び国後島での任務に就いていることが、太平洋艦隊機関紙の報道により判明**
- ◆ 2018年1月には**択捉島の新民間空港が軍民共用化され、同年8月には同空港に戦闘機(Su-35S×3機)が配備された旨伝えられている。**
- ◆ 2020年12月、択捉島及び国後島に**地对空ミサイル(SAM)システム「S-300V4」(SA-23)が実戦配備された旨、ロシア国防省系メディアが報道。**
※ 同「S-300V4」は、ウクライナ侵略以後、消失しており、ウクライナ方面へと転用されている可能性が指摘。

(注)露側の呼称である「クリル」諸島は、北方領土及び千島列島を指す。

択捉島・国後島における主な装備



多連装ロケット「スメルチ」



戦車「T-80BV」



地对空ミサイル「S-300V4」



地对艦ミサイル「バスチオン」



多目的戦闘機「Su-35」



多目的型ヘリ「Mi-8」



偵察用小型無人機「オルラン-10」

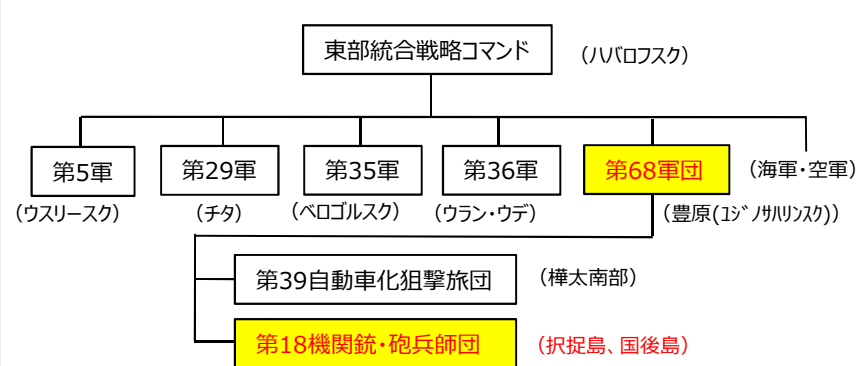


地对艦ミサイル「バル」



第18機関銃・砲兵師団の位置付け

※東部統合戦略コマンドは東部軍管区の各軍を統合運用



ロシアから見た北方領土・千島列島の軍事的意義

(資料源 : National Interest、ロシア通信、Soviet Military Power 1989、Google Map等)

- ◆ ロシア軍にとって、北方四島・千島列島における軍備強化は、
 - ・戦略原潜の活動海域として重要な、オホーツク海を防御するとともに、
 - ・ウラジオストク配備の主要水上艦を中心とする艦艇の太平洋へのアクセスを維持していく上で重要。
- ◆ ロシアは、ウクライナ侵略による通常戦力の損耗を補う観点から、今後より一層、核戦力への依存を深めていくと考えられ、引き続き、新型戦略原潜の配備や、これらを防護するため、北方四島・千島列島における軍備強化等(いわゆる「バスチオン(要塞)」戦略(注))を推進していくものとみられる。

(注) 米国防省は、その報告書「Soviet Military Power 1989」等の中で、旧ソ連が自国領土に近い海域において、地勢も利用しつつ、陸海空軍のアセットにより防護する戦略原潜の活動領域を「バスチオン」と呼称。戦略原潜が配備されている露北洋艦隊及び露太平洋艦隊は、それぞれバレンツ海及びオホーツク海を中心に「バスチオン」を設定するとされる。

我が国周辺におけるロシア軍の配置

※海氷のため、通常1月～3月にかけて宗谷海峡や択捉島・国後島周辺の海峡通過は困難



オホーツク海周辺におけるロシア軍の配備戦力 (※1)

	樺太南部	国後島	択捉島	松輪島	幌筈島 (ぱらむしるとう)	カムチャツカ半島
地对艦ミサイル	○(21年)	○(16年)	○(16年)	○(21年)	○(22年)	○
地对空ミサイル	○	○(20年)	○(20年)	—	—	○
地上兵力	○	○	○	—	—	○
水上艦	—	—	—	—	—	○(※2)
戦闘機	— (軍用飛行場あり)	—	○(18年)	— (軍用飛行場あり)	—	○ (対潜哨戒機も配備)

※1下表中の「○」は配備・展開あり、「—」は配備・展開なしを示す。カッコ内は新規配備・展開年または特記事項
 ※2「カリブル」搭載可能なステレグシチー II 級フリゲート「グレミャーシチー」は、22年ペトロパヴロフスク・カムチャツキーに配備